

筑波のかえる 第42号



脳損傷友の会・いばらき
2019年 春号



脳損傷友の会・いばらき

〒300-2622

茨城県つくば市要1187-299

筑波記念病院リハビリテーション部内

TEL 080-8430-3365

FAX 029-877-4688

E-mail kojinouibaraki@yahoo.co.jp

H.P <http://www.geocities.jp/nousonshouibaraki/index.html>

《 42号内容一覧 》

はじめに（石井副会長）	1
役員会から	2
家族会交流室を振り返って	3
研修会・講習会・その他の活動報告	4
茨城障害者職業センター紹介	7
県北の広場	8
県南の広場	10
神栖の広場	12
がんばってる人⑦「椎名 聡さん」	13
施設訪問⑥「リライブ」	14
施設訪問⑦「しらゆり荘」	15
おしらせ・編集後記	16



表紙の写真は、神栖市の御所脇充さんの作品です。上段の写真は「神栖市日川海岸の初日の出」左下は「足利フラワーパークのイルミネーション」右下は「香取神宮参道の紅葉」です。そして、左の写真はご本人が勝田マラソンに参加した時の写真です。

はじめに

寒暖の差が激しい年明けとなり、皆さんの体調はいかがですか？「筑波のかえる」が届くころには、春先の足音が聞こえてくるような日々になっていると思われます。今年「平成」も終わって、新しい年号に変わり、現天皇陛下が退位され、新天皇陛下が誕生し、新時代がスタートします。

平成を振り返りますと、大規模災害、人口減少、格差社会、AI、セクハラ、パワハラ等の様々な言葉が取り上げられました。さて、新時代はどんな言葉が取り上げられていくのでしょうか？複雑で多様な社会になっていくのでしょうか？

国際的には米国と中国の覇権争いが顕著になってきており、EU や中東問題も一層深刻になっていき、「平和」という言葉が遠くなっていくように思われます。国内においても、外国人労働者の受け入れが決定しました。私たちの周りでも多くの外国の方が働いていて、街を歩いていると日本語よりも外国語の方が多く聞こえてくる場面に遭遇することもあります。

また、企業でもアジア各国より優秀な人材が多く就職し、活躍している時代になってきていて、社会が大きく変化しようとしています。そんな中で障がい者を持つ親や家族等は、日々闘っています。年末のニュースで、精神障がい者の「就労パスポート」を導入することでしたが、障がい者就労に関する調査で虚偽の数字が表面化したような中で、果たしてうまく機能するのか、疑問でしかありません。

中でも、高次脳機能障害の人たちが一般就労をするのは、とても厳しく狭き門であり、就労できない当事者が大多数を占めています。そのような当事者を介護している親、家族のストレスや疲労はかなり多くなってきているように思われます。私も、妻が他界して5年が経過し、改めて自分も老いてきて、日々息子に対応することが苦痛になることもあります。

私たち家族が、1番不安に感じていることは、親亡き後の見守りの事です。高次脳機能障害を理解していただける施設や事業所などを拡充して、当事者や家族が安心して過ごし、必要な時は家族がフルタイムでも働けるような環境整備をしていただきたいと、切に願っています。そして、そのような世の中を目指して、この家族会でも手を携えて進んでいきましょう。



副会長 石井

役員会から

平成30・31年度 脳損傷友の会・いばらき 事業予定

項目 月	会 員	役 員 会	そ の 他
3月	8日 家族会交流室 10日 バス旅行 27日 神栖集会	20日 役員会	1日 リハビリ講習会 7日 県ネットワーク研修会 15日 支援従事者研修会 15日 会報誌発行
4月	12日 家族会交流室 21日 県北集会 24日 神栖集会 日 県南集会（未定）		4日 事例検討会 12日 地域包括ケア研修
5月	10日 家族会交流室 16日 県北家族の集い 22日 神栖集会	15日 役員会	
6月	14日 家族会交流室 23日 県北集会 26日 神栖集会		15日 会報誌発行 日 家族会総会（未定）

役 員 会 報 告

- 平成30年12月19日 議事 (1) 要望書の回答について
(2) 神栖・県南集会の報告
(3) 各行事の報告（勉強会・リハ講習会等）
- 平成31年2月20日 議事 (1) バス旅行について
(2) 県南集会の報告
(3) 専門職協会研修会報告

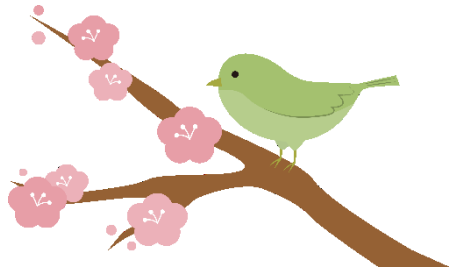
家 族 会 交 流 室 か ら の 報 告

- 平成30年12月14日 相談者4組 会員4名
支援センター 小原氏・土井氏
- 平成31年1月11日 相談者1組 会員7名
支援センター 寺門氏
- 平成31年2月8日 相談者2組 会員5名
支援センター 浅野氏
- 平成31年3月8日 相談者1組 会員9名
支援センター 小原氏、山中氏



家族会交流室を振り返って

高次脳機能障害者とその家族のための集いの場をつくりたい、そういう思いで細々と始めた家族会交流室も、早いもので7年目に入りました。その間たくさんの方たちのご支援のおかげで、少しずつではありますが交流室の存在が広まってきました。



ことに、昨年4月に、「高次脳機能障害支援センター」ができたことで、来室される方も多くなりました。中には、支援センターから紹介されたという方も多く、また、来室をきっかけに、改めて支援センターに相談される方もいます。交流室にとって支援センターとの連携が、いまや欠かせないものとなりました。毎月支援コーディネーターが参加されることもその一つです。医療の問題や、福祉の制度や諸手続き等の相談にのっていただくことも多く、来室されたお一人お一人の問題の解決に向けて大きな力になっています。

さて今年度は、2月の段階で、延べ63名の方が来室されました。都合があり来室までには至らなくても、電話での問い合わせ・相談も数多くありました。

交流室には、そこにご自分の居場所を見つけ、毎回のように参加され当事者の方も増えてきています。「家族の会」ということもあり、どうしても、家族としての相談が多く、見守る立場からの問題提起が多くなるのはやむを得ないことではありますが、できるだけ当事者の方たちの発言の機会を作るようにも努めています。なかなか自分から発言することが苦手な人でも、ゆっくりとしっかりとご自分の経験や考えを話してくれます。当事者でしか向き合えない障害の辛さ、当事者同士でしか共感しえない経験や思いもたくさんあるということに気づかされることも数多くありました。

もちろん、最も身近な家族としての問題や情報の共有、ピアカウンセリング等、開始からずっと培ってきたものは大切に続けていかなければなりません。当事者の方たちの大きな力が加わることで、新しいステップを踏み出す時なのかなとも思っています。新年度も支援センターのお力もお借りしながら、楽しく実り多い交流室にしていきたいと思えます。

毎月第2金曜日 11:00~14:00

場所：筑波記念病院トータルヘルスプラザ内

メディカルフィットネスセンター「フェニックス」

(☎ 080-8430-3365)

☆軽いランチご持参で、どうぞお気軽にご参加ください。

お待ちしております。

茨城県リハビリテーション専門職協会主催 “クローバーサロン”

茨城県全域 5 か所で「障がい者とリハビリテーション専門職の交流会」が 3 日間の日程で開かれ、土浦会場に参加してきました。茨城県リハビリテーション専門職協会とは、茨城県における理学療法士会、作業療法士会、言語聴覚士会からなる 3 土会連絡協議会で、主な事業内容は人材育成、医療・介護・福祉の連携推進、自立支援の促進、介護予防の推進などを行っています。BGM の流れる会場でお茶とお菓子を頂きながら、他の障がい者家族会の方、福祉施設の関係者、リハビリテーション専門職の方々などが集まって、様々な事を話しました。感じたことは、高次脳機能障害を専門職の方達でも知らない方が多かったこと。高次脳機能障害支援センターが設置されたことを知らない方が多かったです。普段、この障がいを持った方と接することが少ない、ということでしたが今後の課題が見つかった思いがしました。

TKK 高次脳機能障害実践的アプローチ講習会第 3 回

12 月 9 日（日）に東京慈恵会医科大学講堂で、本年度 3 回目の講習会が行われました。会場は全国から集まった参加者で満席になるほど、熱気にあふれていました。今回は、渡邊修氏による画像診断から読み取る高次脳機能障害、山口佳代子氏の心理職としての高次脳機能障害への支援、そして宮本玲子氏の脳科学を応用したニューロリハビリテーションが、地域リハビリに活用できるのではないかとという講演でした。ニューロフィードバック療法という、脳波を自分で調整することを支援するという治療で、もともとはうつ病や発達障害の治療方法の一つとして用いられてきたそうです。高次脳機能障害に対しても応用できることを期待されているそうです。



最後のプログラムでは、50 歳代の男性の事例検討を会場の全員がグループに分かれ、今後の方向性を考え、結果を発表しあうということを体験しました。高次脳機能障害者への支援がこのように進んでいることを実感した講習会でもありました。

来年度のアプローチ講習会は会場が永田町駅近くの JA 共済ビルに変わるそうです。案内を本誌に同封しますので、県外の空気を感じてみるのも良いかもしれません。

高次脳機能障害者支援従事者研修会

～～～「高次脳機能障害のある方への支援」～～～

12 月 13 日（木）、高次脳機能障害者支援センター主催の研修会が笠間市立笠間公民館において開かれ、参加してきました。独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構茨城支部 茨城障害者職業センターの障害者職業カウンセラーである河合智美氏による講演で、茨城県障害者職業センターの紹介、高次脳機能障害に対する様々な補完手段の説明、そしてご自身が対応された事例を紹介されました。高次脳機能障害者の就労支援においては、次のような取り組みが必要ということです。

- 1.様々な場面を通してアセスメントする
- 2.障害の自己認識を促す
- 3.補完手段を繰り返し実践する機会を作り習慣化を促す
- 4.当事者が、障がいの特性、対処方法、事業所に配慮を求めたいことを説明できるように、書面にまとめ自己紹介書の作成を支援する

印象的だったのは「自分の障害を明文化していくことが大事」という河合氏の言葉でした。また、講演後の質問時にも面接の段階で「自分の障害が分からない」という求職者に対し、返事にこまったことがあったという事業所の方がいました。復職、就労においては自分の障害の理解、受容がとても大事なポイントなのだと改めて思いました。参加者は70名程で関心の高さを感じましたが、ご家族はこのような機関があることを知らない方も多いのではないのでしょうか。後日に茨城県障害者職業センターを見学させて頂き、本誌に記事を載せていますので、そちらも併せてお読みください。

茨城県介護予防リハビリ専門職指導者養成研修

～～～「地域包括ケア推進リーダー 実践研修」～～～

1月12日(土)県立医療大学において茨城県リハビリテーション専門職協会が、県の事業として4年目を迎える研修会が開催されました。当会も発表者として参加させて頂くのが4回目、笹原さん、小野瀬さん、滝沢で高次脳機能障害者と家族の体験を発表して来ました。120名のOT・PT・STのセラピストの方々が参加されたそうです。この事業は今年度が最終という事でしたが、来年も継続されることになったと、次回もお誘いを受けました。高次脳機能障害を知って頂けるよう、アピールしていきたいと思えます。



いばらき 社会リハビリテーションフォーラム

～～～“障がいのある人もない人も共に歩み暮らすために”～～～

茨城県リハビリテーション専門職協会の主催で1月14日、つくば国際会議場において、NHK番組「バリバラ」でレギュラー出演されている玉木幸則氏をお招きして、特別講演が開かれました。テーマは自分らしく生きる～自立の始まりは自分で選び自分で決めることから、とても力強い、人間力のある方でした。

「ちゃんと生きよう。」阪神・淡路大震災を経験されて玉木さんはそう思ったそうです。住んでいた西宮市のアパート一階がペしゃんこになり、ご自身は寝ていたベッドの床が抜け落ちたことで助かりましたが、隣室の大学生が亡くなったそうです。わずか数メートル離れたところで彼は即死、自分は無傷。自分に何ができるのか、真剣に考えるようになったとおっしゃっていました。

玉木氏の楽しく、ユーモラスなお話の中に、障害を持って地域で生きるということの大切さと、その理想に向かって努力する強い信念や思いをお聞きすることが出来ました。

群馬、栃木、茨城 3 県の高次脳機能障害家族会の会長会

2 回目の会長会が 1 月 24 日（木）、埼玉県の越谷市で行われ、埼玉県のご家族も加わり、他県 3 県の状況を色々とお聞きすることができました。医療、リハビリ、支援体制、講演会の様子、地域によって状況は本当にさまざまです。でも、どの家族会も高次脳機能障害の理解や支援の普及のために尽力されていることは一緒なのだ、勇気を頂いた思いです。これからも連携を図っていこうと、今回は 5 月に開催することになりました。

職業リハビリテーション学会関東ブロック研究会主催研修会

2 月 3 日（日）、「障害年金と就労支援」についての研修会が東京都目黒区民センターで行われました。講師は社会保険労務士の吉野千賀氏（よしの社労士事務所代表）、精神保健福祉士の山田多希代氏（駒木野病院・サービスステーション駒木野室長）、両者各々違う立場からの支援の進め方を聞きながら、十数年前、息子の将来を思い必死に手続きしたことを思い出していました。障がいの違いによって手続きの注意点が変わってくるとのことで申請に手間はかかりますが、年金を貰うと貰わないでは生活のゆとりが違って来ます。障害基礎年金の手続きが東京都の障害年金センターに一元化されたことによって打ち切り問題が発生したように、制度が変わることで不利益が生じることもあるかもしれません。相談できる良い支援者に出会えることも大事なことと思いました。

3 時間程の研修でしたが、「この制度について何も知らなかった」というのが感想で、解りづらいこの制度は年金事務所であっても正しい知識があるとは限らないそうです。受付でダメと言われても、年金事務所は全国どこへ相談しても良いので、調べてみたほうが良いとのことでした。

満席の会場では就労支援に携わっておられる方、実際に申請している段階で困っている方などからの質問が多く、熱のこもった質疑応答がなされていました。今は傷病名が癌であっても受給は受けられるそうです。知ると知らないでは大きな違いになってくるかもしれませんね。

大人とこどもの高次脳機能障害を考える会いばらき

2 月 18 日、筑波大学付属病院にて開催されました。今回の当事者は、生後 2 日目に脳出血を発症した現在 19 歳の方です。昨年、特別支援学校を卒業後障害者雇用枠で就労しましたが、その前後から突然切れることが多くなりました。支援学校の卒後支援を受けながら就労は続けていますが、家庭でも暴力的になることがあり思いあまったご両親からの相談がありました。学校や職場、家庭での様子を伺い、参加者のご両親、ご本人の関係者の皆さんで今できること、そして将来を見据えた具体的な方策等を話し合いました。最初は堅かったお母さんの表情がほぐれて柔らかい笑顔に変わって帰られたのが印象的でした。開催にご協力いただきました皆様に感謝申し上げます。



「茨城障害者職業センター」紹介

◎就職、職場定着や職場復帰の支援をします。

所在地 笠間市鯉淵6528-66

TEL 0296-77-4752

(平日 8:45~17:00)

- ◇自分の特性が分からない
- ◇疲労やストレスの対処法を知りたい
- ◇仕事の不安に対するアドバイスがほしい
- ◇今の職場で安心して働きたい

など、様々な仕事上の希望や不安に対して、障害者職業カウンセラーの方が助言や具体的支援、情報提供などを行います。(相談は予約制です。)



正面玄関

【職業準備支援】

☆講習(講座・ミーティング・模擬面接など)

- ・疲労やストレスに関して
- ・コミュニケーションに関して
- ・自分に合った働き方に関して

☆作業支援

- ・作業体験を通じて正確、効率的に行う工夫の検討などの支援



検査器具

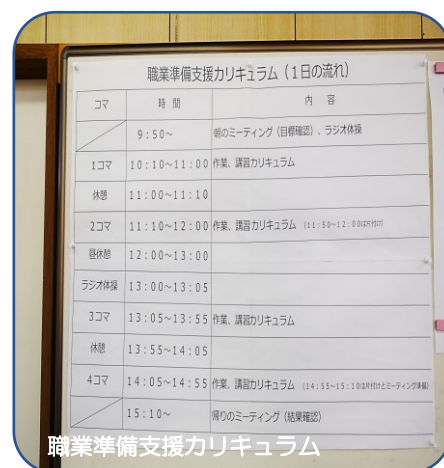
【ジョブコーチ支援】

☆ジョブコーチが一定期間会社へ訪問し、障がいのあるご本人に対して、職場定着に関する支援を行います。

- ・相談を中心とした、事業所内での支援
(人間関係・コミュニケーション・疲労・ストレス担当する職務など)
- ・事業所で必要な配慮を得られるようにする支援
体力に応じた勤務時間の設定
疲労の特徴に応じた休憩の取り方
感覚特性に応じた環境調整

※ジョブコーチ支援を利用した方の職場定着率

91.0%



コマ	時間	内容
	9:50~	朝のミーティング(目標確認)、ラジオ体操
1コマ	10:10~11:00	作業、講習カリキュラム
休憩	11:00~11:10	
2コマ	11:10~12:00	作業、講習カリキュラム (11:50~12:00休憩)
昼休憩	12:00~13:00	
ラジオ体操	13:00~13:05	
3コマ	13:05~13:55	作業、講習カリキュラム
休憩	13:55~14:05	
4コマ	14:05~14:55	作業、講習カリキュラム (14:55~15:10休憩)
	15:10~	午後のミーティング(結果確認)

職業準備支援カリキュラム

◎カウンセラーの河合さんにお話をお聞きし、センター内を案内していただきました。通所している高次脳機能障害の方は全体の1割位だそうです。職場復帰を目指す方々は職員の方を中心に輪になって、グループミーティングをしていました。就職を目指す方々は、パソコンを使ってデータ入力の作業などを行っていました。丁度その日に退所される方が「ここで毎日準備支援を受けてきたことで、自信をもって仕事に就ける気持ちになりました。」と話されていたのが心に残りました。

県北の広場

第5回県北集会 平成30年12月9日(日)

場所 : 水戸市福祉ボランティア会館 大研修室
内容 : クリスマス会
参加者 : 24名(当事者1名、家族5名、支援者8名、学生7名、見学者3名)



準備も全員で
行いました♪

メディカル2年生!
1年間、支援ありがとう
ございました!!



クリスマス
ビンゴ~!!



サンタさん
発見!!

(リーダー・渡辺 円美)

第6回県北集会 平成31年2月10日(日)

場所 : 水戸市福祉ボランティア会館 大研修室
内容 : 使用済み切手の整理
参加者 : 19名 (当事者2名、家族6名、支援者7名、学生4名)



切手の整理の前
切手のクイズを行いました。

Q. 日本で一番高い切手は、
いくらでしょうか(^ ^)?



珍しい切手を見つけると、
隣の人に教えたくくなります。
時が立つのを忘れ、
夢中で作業を行いました。



作業が終わった切手と共に、ハイ・ポーズ(^ ^)v
前日の雪の影響が心配されましたが、無事に開催できて安心しました。
来年度も、よろしくお願いします(^ ^)♪

(リーダー・小塚 仁美)

第4回県南集会 「高次脳機能障害当事者のつどい」

日時	平成31年1月26日(土) 13:30 ~ 15:30
場所	土浦ふれあいセンター ながみね
内容	13時30分 あいさつ
	13時40分 レクリエーション
	14時~15時30分 お話の時間



★笑顔で楽しく過ごす秘訣★

高次脳機能障害支援センター 浅野

今回、県南集会に初めて参加させて頂きました。つどいのテーマや内容など、家族会の皆様と考えさせて頂き、大変勉強になりました。

今回のトークテーマを「笑顔で楽しく過ごす秘訣」とさせて頂きました。実際に当事者のみなさんがこのテーマにどのようなお話をしてくださるか、不安な点もあったのですが、本当に素晴らしい意見が多数あって、感動しました。当事者になって失った能力や思い描いていた生活、周囲からの配慮に欠けた言葉、自分自身に対する葛藤や苦しみを乗り越え、今、この場で発言しているみなさんの生の声に心を打たれました。また同じグループになられた方への配慮や理解のある態度は、きっとご家族にとってはご自宅や慣れた環境では見られなかったお姿だと思います。

お互いに同じ障害となり、同じような経験ある方が会って話をする機会があまりなかったこともあるのか、参加されている皆さんの目がキラキラと輝いていて、一生懸命「聞く」ことに集中されているご様子が印象に残っています。

実際に当事者のつどいの空間で一番感じたのは、当事者からの経験談や生きた言葉は、当事者同士だからこそ、心に沁みているのだということです。どんなに家族や支援者に言われてもなかなか実感できなかつたり、受け入れられないことが、同じ境遇や経験のある方からだと「すーっと心に入る」のではないかと思います。記憶障害がある方でも内容は詳しく覚えていなくても、心地よかった感覚は残っているのかなと思いました。逆に自分自身にとって新たな課題が生まれた方もいらっしゃるかもしれませんが、それも一つの新しいステップではないかと思います。

当事者のつどいに関して、当日の流れ、空間作り、グループ分けなどをセンターの職員で決めさせて頂きましたが、いかがでしたでしょうか。もし改善点や至らない点がありましたら教えて頂けたら幸いです。参加させて頂き、本当にありがとうございました。



「チャレンジ精神、それがプラス思考に繋がる。」すごく芯の強い素晴らしい発言だと感じました。

今回、初めて県南集会に参加させていただきました。初めての参加であったので、上手く進行できるか不安な部分もありましたが、参加していただいた方々や友の会役員の方々に助けられて、無事終了することができたと思います。

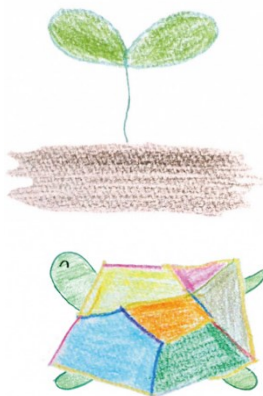
今回のトークテーマを「笑顔で楽しく過ごす秘訣」と決定してから、皆様とぜひ様々な話ができればいいなと当日を待ち遠しく思っておりました。

当事者の集いに参加させていただいたのは、久しぶりではありましたが、皆さんからも様々な考えや率直な今の気持ちを伺うことができ、有意義な時間を過ごすことができました。

私が参加したグループでは、就労に向けて訓練をしている方、障害を持ちながらもお仕事をされている方等、様々な立場の方がいらっしゃいました。立場は違っても、それぞれ障害を負ってから私たち支援者が想像もできないくらい辛いことや周囲からの心無い言葉で悩んだり、苦労をしてきたりした経験があったかと思います。それをそれぞれが乗り越えて、今回皆さんの前でその経験を話して、前向きに集いに参加されている姿に、私は尊敬の気持ちを抱きました。ジムで体を動かしたり、好きな音楽を聴いたり、テレビドラマを見たり等、これはほんの一例に過ぎませんが、それぞれの元気になる方法が数多く挙がり、参加された皆様にとっても、非常に良い刺激になったのではないかと思います。

当事者の方同士で集まって話をするという場は、茨城県内では少ないのが現状です。今後、どのような支援の形がふさわしいか、支援センターとしても検討しているところです。今回、初めての参加にも関わらず、私を受け入れていただき、とても嬉しかったです。また、皆様にお会いできることを楽しみにしています。ありがとうございました。

最後に、「高次脳機能障害支援缶バッジ」のPRキャラクターとして、双葉と亀のネーミングを募集しています。ぜひご意見いただければと思います。詳細については、高次脳機能障害支援センターまでお問い合わせ下さい。☎ 029-887-2605



神栖の広場

今年度から、毎月支援センターからの参加があり、相談先や病院等の情報が広がりました。各自、抱えている内容が違うため集会での話は参考になると思います。

1月は薬を服用している方の日常生活や体調の変化が話題になりました。支援センターの浅野さん、丹羽さんからのアドバイスもあり定期的な血液検査の必要性等充実した内容でした。私の息子も年齢的に体調管理の大切さも感じていたので、是非実践しようと思います。当事者に添った支えを心がけていこうと思います。(御所脇)



神栖集会からの報告

12月26日(水)・・・支援センター：寺門コーディネーター
会員：5名

1月23日(水)・・・支援センター：浅野コーディネーター
会員：4名
家族会：丹羽さん

2月27日(水)・・・支援センター：山中コーディネーター
会員：4名

～わたしたちでつくる やさしいまち～

平成31年1月号 No. 320

あかみす社協ニュース

高次脳機能障害を考える会

高次脳機能障害は、病気（脳血管障害、脳症、脳炎など）や事故（脳外傷）などで脳が損傷を受けることで起こります。ふたつのことを同時に行くと混乱する、作業等を長く続けられないなどの注意障害や、物の置き場所を忘れる、新しい出来事を覚えられないなどの記憶障害といった症状があります。脳の損傷であるために外見からはわかりづらく、家族や周りの人たちは、その対応に戸惑うこともあります。

高次脳機能障害を考える会では、毎月1回7名のメンバーが参加し、お互いの近況を話し合ったり、情報交換をして交流を深めています。また、定例会には茨城県高次脳機能障害支援センターの職員も出席しているので、専門的な相談や利用できる制度等についてアドバイスをいただけます。当事者やそのご家族などの参加をお待ちしておりますので、お気軽にお問合せください。



■活動日：毎月第4水曜日、午前10時30分から開催。※1月は23日(水)に開催します。

■場所：神栖市保健・福祉会館内 ■問合せ先：社協神栖本所 担当：大久保 TEL：0299-93-0294

頑張ってる人⑦

◎ 周りを明るくするムードメーカー

水戸市

河和田町 椎名 聡さん

椎名聡さんは、病気になる前は、水戸市の法律事務所「弁護士」として働いていました。病気発症後、リハビリ等辛く大変な時期を経て、現在は水戸市の就労支援施設「のぞみ」で、週3日働いています。お伺いしたのは昼休みで、食後の貴重な時間でしたが、とても丁寧にいろいろなお話をさせていただきました。



★椎名さんの1週間の過ごし方をお聞きました

<月・火・金曜日>

「総合班」というグループで、仕事をしています。現在の仕事の内容としては、わら納豆についている、たれとからしを入れる紙袋の糊付け、そして潤滑剤のキャップに、細いストローを取り付ける事等です。（実際にどのように作業をするのかを見せていただきました。）そのほかに、ハンガーの水拭きなどの作業もあるそうです。



<水曜日>

自宅で過ごし、地域の集まりなどに参加します。夜は水戸芸術館の近くの男女文化交流プラザで合唱の練習に参加し、知り合いの税理士の方が団長を務める「茨城センター合奏団」という合唱団の団員にもなっています。男性4名女性10名計14名の小さな合唱団ですが、歌うことがとても楽しいそうです。この1月には「全国歌声祭典」にも参加してきたそうです。

<木曜日>

主治医の先生の勧めもあり、東海村の総合支援センター「なごみ」で高齢者の方々の集まりに参加しています。お年寄りの方々との話の中で、相続の話なども時々出るそうですが、椎名さんは分かりやすく教えてあげるのだそうです。認知症予防の話や、みんなで調理をしたりするのが楽しいとのことでした。

<土・日曜日>

自宅でお母様とゆっくり過ごします。月に1回土曜日に瓜連の病院に行き、主治医の先生とお話をするのも楽しみの一つだそうです。椎名さんは、終始にこやかにお話をしてくれました。1番楽しいのは「なごみ」で過ごす時間だそうです。理由は「好きなことをさせてもらえて、来ている方々との関わりが楽しいから。」とのことでした。きっとお年寄りの方々も椎名さんとお話をするのを楽しみにしているのでしょう。30分の取材が終わると、「外でのウォーキングがありますから。」と、颯爽と外に出て行かれました。

自立訓練（機能訓練）サービス事業所訪問 ⑥

高次脳機能障がい者支援施設

グループホーム レリーフ
自立支援（生活訓練）リライブ
住所 笠間市笠間1593-1
Tel 0296-72-1102
2018年6月 開所



中央部に多目的スペースを挟んで、その両側にグループホームと訓練スペースとがありました。多目的スペースは天井も高く、小さな体育館のようでした。天候に関係なく運動や機能訓練ものびのびとできるそうです。

併設されているグループホーム「レリーフ」は、14部屋。広さは8畳程度の洋室で、各部屋にトイレやクローゼットが完備されていました。現在、8部屋に入所されている方がいます。食堂も、明るくとてもきれいでした。浴室は2か所あり、身体状況に応じて使用できるそうです。



訓練スペースも明るく広々としていました。訓練は「ゲームの日」と「スポーツの日」に分かれているそうです。伺った日は3人の支援者の方が入り、ボールを使ったゲームをしていました。和気あいあいとした和やかな雰囲気でした。

施設長の野原さんにお話を伺いました。現在8人の入所者に対して5人の支援者が対応しています。専門職の方はいませんが、昨年まで県リハで働いて居られた方が中心となって「訓練プログラム」を作成しています。

支援者が必要以上に手を出しすぎないように申し合わせをしてから、予想以上の進歩を遂げている人がいます。望ましい支援の在り方を考えたいとのことでした。

自立訓練（機能訓練）サービス事業所訪問⑦

社会福祉法人 川惣会
 障害者支援施設 しらゆり荘(写真 A)
 グループホーム しらゆき

住所 かすみがうら市中志筑 2409-1
 TEL 0299-59-5912
 平成 29 年 3 月 開所



<写真 A>



<写真 B>

しらゆり荘は多機能型支援施設

- 施設入所～45 名
 - 生活介護～30 名
 - 就労 B 型～20 名
 （グループホーム併設）
 - 自立・機能訓練～10 名(写真 B)
- ※最近高次脳機能障害の方の希望も多くなっています。

就労 B 型では

- ジャージやポロシャツに
 プリントや刺繍（製品化）
- ペンの袋詰めや箱詰め
- 果物用ネットの検査や折り
- 紙バッグやビニール袋の加工



<写真 C>

◎管理責任者の石橋さんと作業療法士の三橋さんにお話をうかがいました。

先進県である千葉県リハでの研修を経て、今年から「社会生活力プログラム」を始めました。これは高次脳機能障害の方たちが自分の障害を正しく理解したり、周囲の方々との良い人間関係を作ったり、様々なサービスを活用したりする能力を高めるためのリハビリテーションです。具体的にはゲームやグループワークを介しての集団訓練（ハイブレイングループ）を取り入れています。又、自己決定することを自立の基本ととらえ、自分で 1 週間の計画を立てる取組み（写真 C）などを行っています。最終的には自宅に戻って社会の中で生きていける力を付けていただきたいと思います。

お知らせ

◇家族会のホームページのアドレス(URL)が変わりました。

4月1日より、以下のアドレスに変わります。

(3月中も旧アドレスから自動転送されます。)

<http://nosonshoibaraki.sunnyday.jp/>

※お知らせなどが掲載されていますので、ぜひご覧ください。



◇日本脳外傷友の会 2018 年度のアピール文です。

日本脳外傷友の会

第 18 回 全国大会 2018in 三重 アピール文

今回の全国大会のテーマは「未来につなげ支援の輪—高次脳機能障害の支援の充実を目指して—」です。その理由は、「高次脳機能障害」という用語は、以前よりも知られるようになってきたものの、支援内容についてはまだ課題があるからです。高次脳機能障害者支援には、地域差が拡大しているだけでなく、高次脳機能障害者の個別性に対する細やかな配慮や、発症からそれぞれのライフステージに合わせた支援が不十分です。

そのような現実を踏まえ、当会は高次脳機能障害者とその家族に必要な施策の充実を図るため、「日本脳外傷友の会」から「日本高次脳機能障害友の会」へと名称を改めます。

そして、私たちは、すべての高次脳機能障害者とその家族が、高次脳機能障害による支障を軽減し、充実した日々を送ることを可能にするため、次の 1 点を強くアピールします。

高次脳機能障害支援法の成立を目指し、一般社会への啓発をより進めていきます。

現行の福祉制度は従来の障害者に視点を当てたものが多く、必ずしも高次脳機能障害に適しているとはいえません。例えば、「自立訓練（機能訓練、生活訓練）」にしても期限を決めることなく、その障害像に合った利用が不可欠です。また、小児の高次脳機能障害に対しても、その特性に合った支援がなされず、障害者プランにも高次脳機能障害児の支援は取り上げられていないのが現状です。高次脳機能障害支援法が成立することにより、社会一般の啓発が進み、全国どこでも、共通した質の高いリハビリテーションと高次脳機能障害者と家族に対する支援が受けられるよう活動していきます。

平成 30 年 10 月 20 日

日本脳外傷友の会第 18 回全国大会 in 三重、参加者一同

※広報誌「筑波のかえる」は「茨城県福祉団体補助金」により発行しています。